

【国語】 <小学校 第6学年>

1 結果のポイント

- 「話すこと・聞くこと」について、話し手が伝えようとしている内容の中心を正しく聞く力や、意見の理由を正しく聞く力をみる問題では、正答率が80%を上回っている。
- 「書くこと」について、自分の考えを分かりやすく伝えるために立場や理由をはっきりさせて決められた字数で書く力をみる問題の正答率が80%を上回っている。
- 資料を読んで考えたことについて、立場や理由をはっきりさせて決められた字数で書く力をみる問題の正答率が60%を下回っている。
- 「読むこと」について、述べられている内容を正しく読む力や、目的に応じて必要な図書資料を選ぶ力をみる問題では、正答率が80%を上回っている。
- 事実と筆者の考えを区別して読む力や、筆者が伝えようとしている内容を正しく読む力をみる問題では、正答率が60%程度である。
- 「言語事項」について、漢字を正しく読む力や、漢字の意味を考えて熟語を作る力をみる問題では、正答率がすべて80%を上回っている。
- 漢字を書く力をみる問題では、正答率が60%程度のものがある。

2 結果の分析

(1) 話し手が伝えようとしている内容の中心を、正しく聞く力をみる問題の例（「聞く能力」）

<問題> の一

最初に意見を述べた山田さんが言いたいことの中心はどんなことですか。次のア～エの中から一つ選び、その記号をの中に書きましょう。

- ア 大事な資源を積極的に再利用するとよいということ。
- イ わかりにくい外来語はあまり使わない方がよいということ。
- ウ ポスターの文字の大きさや色に気をつけるとよいということ。
- エ 必要な外来語は積極的に使った方がよいということ。

<結果> 正答率 85.1% (正答…エ)

<分析>

この設問は、話し手が伝えようとしている内容の中心を正しく聞く力をみる問題である。結果から、多くの児童が、意見の最後に話した「必要な外来語は積極的に使った方がいいです。」という内容を正しく聞き取っていると考えられる。本年度「聞くこと」の設問のほとんどの正答率が70%を上回っていることから、昨年度と同様に聞く力が身に付いているといえる。

(2) 資料を読んで考えたことについて、理由をはっきりさせて、決められた字数で書く力をみる問題の例（「書く能力」）

<問題>

次のグラフは、小学校六年生の児童にアンケートをとり、平日（学校のある日）に、学校から帰ったあと家で勉強する時間について調べたものです。このグラフをみて、あなたは、どのような考えをもちましたか。自分の考えとそうように考えた理由（グラフから考えた理由や自分の経験から考えた理由など）を五行以上七行以内でわかりやすく書きましょう。

<結果> 正答率 58.7% (正答…略)

<分析>

この設問は、資料を読んで考えたことについて理由をはっきりさせて決められた字数で書く力をみるもので、今年度新たに設けた問題である。正答の多くは、「小学校6年生の家での勉強時間」のグラフから読み取った時間や人数に対する考えとその理由を、自分の体験と比較して具体的に書いていた。さらに、考えと理由を段落に分けたり、接続語を使ったりして、構成を意識して書いていた。無解答はわずかで、誤答としては、グラフから読み取ったことか感想のどちらか

だけを書き、理由がはっきりしないものが多かった。この要因として、事柄や感想、意見を区別して、目的に応じて簡潔に書く力が十分身に付いていないことが考えられる。自分の考えを効果的に伝えるために、決められた条件の中で、構成を工夫して、目的や意図を一層意識して書くことの指導を充実させる必要がある。

(3) 筆者が伝えようとしている内容を、正しく読む力をみる問題の例（「読む能力」）

<問題> ㉓の一

2段落にある「対話中に視線をさけようとする事」について、ヨーロッパやアメリカでは、どのように考えられていると筆者は述べていますか。次のア～エの中から一つ選び、その記号を□の中に書きましょう。

- ア 自信があることの表れだと考えられている。
- イ 自信がないのか、劣等感やうしろめたさの表れと考えられている。
- ウ 相手の心の中を読み取ろうとしていると考えられている。
- エ 相手の意見に対する積極的な同意を意味していると考えられている。

<結果> 正答率 94.0%（正答…イ）

<分析>

この設問は、段落の中に書かれている筆者が伝えようとしている内容を正しく読む力をみる問題である。正答率は、昨年度同様高い。文章中に繰り返し出てくる「ヨーロッパやアメリカの」という言葉と、「～の表れと考えられている。」という文末表現に着目し、述べられている事実について正しく理解しながら読んでいくといえる。このことから、書かれている内容についての確に読む力が身に付いているといえる。

(4) 5年生までに習った漢字を正しく書く力をみる問題の例（「言語に関する知識・理解・技能」）

<問題> ㉔の(1)(4)

次の文の _____ 部を漢字に直して、下の□の中に書きましょう。

- (1) 駅が こんざつ している。 (4) 太陽が 姿を あらわ す。

<結果> 正答率 (1) 61.6%（正答…混雑） (4) 65.2%（正答…現）

<分析>

この設問は、5年生までに学習した漢字を正しく書く力をみる問題である。(1)(4)ともに無解答は少なく、誤答としては、(1)では「混」を「困」、(2)では「現す」を「表す」と同音・同訓異字を書いたものが多く見られた。要因として、漢字の意味を正しく理解していないことや、様々な場面で学習した漢字を使う機会が少なく、確かな力として身に付いていないことが考えられる。したがって、今後、漢字使用に対する児童の関心・意欲を大切にしながら学習した漢字を繰り返し練習できるようにしたり、国語や各教科等の授業及び日常生活において、漢字を書く機会を意図的に設定したりしていくことが大切である。

3 分析を踏まえた指導の改善

(1) 指導計画の工夫改善

- ・「話すこと・聞くこと」については、話し手の意図をつかみながら聞く力や、相手意識や目的意識を具体的にもって話の内容を考えながら聞く力を育てることが重要である。そのために、指導事項「イ 話し手の意図を考えながら話の内容を聞くこと」について、年間指導計画に適切に位置付けられているかを見直すことが求められる。さらに、単元指導計画に「五つの言語意識」を位置付けるとともに、「話すこと」と「聞くこと」を関連させ、「話し合いの進め方の工夫」や「話し手の内容・構成の工夫」について重点的に指導できるよう見直しを図る必要がある。
- ・「書くこと」については、立場や理由をはっきりさせ、論旨の一貫した文章を工夫して書く力を育てることが重要である。そのために、指導事項「エ 事象と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること」が重点的に指導できる年間指

導計画になるよう、見直すことが求められる。また、理由をはっきりさせ、決められた字数で書く力が身に付くよう、例えば、話し合った後や読み取った後に書く活動を位置付けるなど、「話すこと・聞くこと」や「読むこと」領域においても、書く機会を多く設定することに留意して単元指導計画の改善を図る。さらに「五つの言語意識」を位置付けるとともに、教師による評価や自己評価、相互評価を設定し、評価意識を高めることで書いたことの有用性が実感できるよう、工夫改善を図る必要がある。

- ・「読むこと」については、事実と感想の述べ方の違いに気付き、筆者がどのように考え、どのような論理を用いて語りかけているかを読み取る力を育てることが重要である。そのために、年間指導計画に、指導事項「エ 書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと」を位置付けることが求められる。そのうえで、文章構成を理解するとともに、文末表現に着目する指導に重点を置くなど、見直しを図る必要がある。
- ・「言語事項」については、3領域との関連も視野に入れて、効果的に児童に力が付くよう、適切な時数を位置付けた年間指導計画となるよう、工夫改善を図る必要がある。

(2) 指導方法の工夫改善

- ・「話すこと・聞くこと」については、話す相手や目的、方法等を明らかにするとともに、児童自身が目指す姿を具体的に理解できるような指導の充実が求められる。また、聞き手が評価しながら聞き、自分の考えと関連させて話すことができるよう、実際に話したり聞いたりする時間を十分確保する。さらに、具体物を示しながら話したり、資料を取り入れながら説明や報告したりするための学習形態を工夫する必要がある。話し手と聞き手が相互に評価し合い、話す聞く活動の有用性が実感できるように指導の充実を図る必要がある。
- ・「書くこと」については、考えを伝えるための多様な方法からふさわしい自分の方法を選択して書いたり、説得力をもたせるための信頼できる材料を様々な方法で収集したりするなど、書く活動の幅を広げる工夫が大切である。さらに、効果的な構成で書かれた文章からそのよさを見付けたり、複数の構成の中からより適切なものを選んだりするなど、構成する力に重点を置いたり、根拠や理由を明確にして自分の考えや意見を書く力を身に付けたりする指導を充実させる必要がある。
- ・「読むこと」については、学習の課題や読む目的をはっきり意識できるようにしたり、重要語句への着目の仕方や着目した語句の解釈の仕方といった具体的な読み取り方を身に付けたりする指導の充実が求められる。また、自分の考えを広げたり深めたりするために、学校図書館から地域の図書館へ情報収集の範囲を広げたり、テーマを決めて様々な本を読んだりするなどの学習を積極的に取り入れる必要がある。
- ・「言語事項」については、漢字の筆順を正しく書いたり、熟語の成り立ちを理解したりするなど、国語の時間の指導の充実を図るとともに、他教科、学校生活、家庭学習等のあらゆる書く活動において、学習した漢字を使用することの有用感が実感できるよう、児童の取組のよさを価値付けたり方向付けたりする指導の充実が必要である。

(3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

- ・教師自身が、「話し方」「聞き方」「話し合い方」「書き方」の範を示し、豊かな言語環境について配慮することが重要である。
- ・本の分類についての知識や検索の仕方、辞書等の特色についての学習内容をふまえて、学校図書館の利用指導や環境整備を行い、児童が日頃から自分で学校図書館を積極的に活用できるようにするとともに、様々な場面で辞書等を活用できるように配慮する。また、読書の質が向上するよう助言する。
- ・総合的な学習の時間や特別活動等で児童が作成した資料や掲示物等についても有効な指導の場としてとらえ、漢字や言葉遣い、表現の仕方が目的や場に応じたものかどうかを視点にして見届け、価値付けるなどの指導を継続する。
- ・互いの立場や考えを大切に尊重し合う指導を日常生活の中で徹底し、自分の思いや考えを文字や音声等を通して、安心して伝え合うことができる学習集団を育成する。
- ・家庭学習でも、継続した取組を行うとともに、学習した漢字の繰り返しの練習等、学んだことを定着させたり、発展させたりできるよう家庭との連携を密にし、適切な見届けや励ましを行う。